

日本医史学雑誌 第四十五巻第二号 目次

原著

曲直瀬道三の前半期の医学(一)——「当流」の意義	遠藤 次郎・中村 輝子	三三
医学館の学問形成(一) 医学館成立前後	町 泉寿郎	三九
明治一二年沖縄県のコレラ流行と土屋寛信	深瀬 泰且	七三
Introduction and Development of Pathology in Korea	Je G. Chi	五〇

研究ノート

『魯西亜牛痘全書』安政版の出版の経緯について	松木 明知	四〇
------------------------	-------	----

資料

手塚良斎『医学所御用留』(四)	深瀬 泰且	四三
池田文書の研究(二十)	池田文書研究会	四二
『よしの冊子』医家関連記事(三)	町 泉寿郎	四五
江戸幕府の医療制度に関する史料(九) (その一)——坂四家の『官医家譜』など(一)——	香取 俊光	四九

追悼

山形敏一先生追悼	石井 厚	四五
----------	------	----

記事

消息		
神奈川県北東の医史跡めぐりツアーを終えて	杉田 暉道	四三
精神医学史国際シンポジウム印象記	酒井 明夫	四六

紹介

例会抄録

家紋からみた杉田玄白の遠祖 中西 淳朗 四七〇
 金子準二——断種史上の人びと(その二) 岡田 靖雄 四七六
 横浜と痘瘡 中西 淳朗 四八一

児島保編著『島根名医略伝』 森 納 四七三
 『芸備医事』復刻発刊 江川 義雄 四七四
 志田信男訳注『アヴィセンナ 医学の歌』 泉 彪之助 四七五
 リチャード・ゴードン著『歴史は患者でつくられる』 立川 昭二 四七六
 吉元昭治著『不老長寿への旅 ニッポン神仙伝』 新村 拓 四七九
 安川里香子著『森鷗外「北游日乗」の足跡と漢詩』 町 泉寿郎 四八〇
 山田慶兒著『中国医学はいかにつくられたか』 高島 文一 四八〇

〈本号の表紙絵〉

徳川綱吉自筆の神農画賛

中国の医薬祖神である神農画賛の風習は早くに日本へも波及し、室町時代以降、神農画賛の軸物があまた作られ、医家の間でもてはやされた。

徳川5代将軍綱吉(1646~1709)は文治政策をとり、幕府直轄の湯島聖堂を建てて学問の隆興をはかったことでも知られる。文人としての素養は高く、歴代将軍のうちでもことに書画をよくした。絵画では神農像を得意の一つとし、しばしばこれを描いて幕府の医官達に下賜した。

表紙絵は綱吉が描いた神農画賛の遺品で伊達家の伝来品(仙台市博物館現蔵)。絵は狩野派絵師の手ほどきを受けたものであろうが、本画は現湯島聖堂神農廟の木像に手足の挙げ方こそ逆ではあるものの、それに酷似していることは注目に値する。湯島聖堂の木像は綱吉の父家光が寛永年間(1624~1644)に作製せしめて北御薬園の高田御殿神農堂に安置したもので、綱吉も必ずや目にしたに違いない。湯島聖堂木像は現状では両手に奇妙で不釣合な物を持たせられているが、この綱吉の絵によって旧態を推定することができる。

賛詩も綱吉自筆で、「初めて五穀を藪え、百草を嘗めて医薬を製し、始めて日中の市を為す」とある(賛は現物では上方にあるが、いま便宜上横に置いた)。絵には「内府綱吉筆」「綱吉」と署名・捺印している。(小曾戸 洋)